

シンポジウム

いま科学者の役割を考える
科学コミュニケーションのあり方

アンケート結果

日時：2017年3月16日（木）

場所：コクヨホール

主催：JST科学コミュニケーションセンター

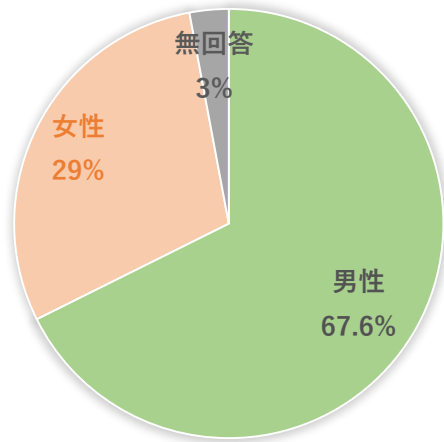
来場者数：173名

アンケート回答総数：136件（回収率77%）

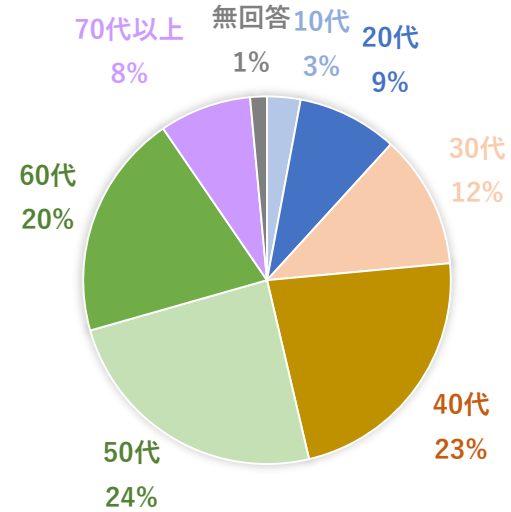


来場者の属性

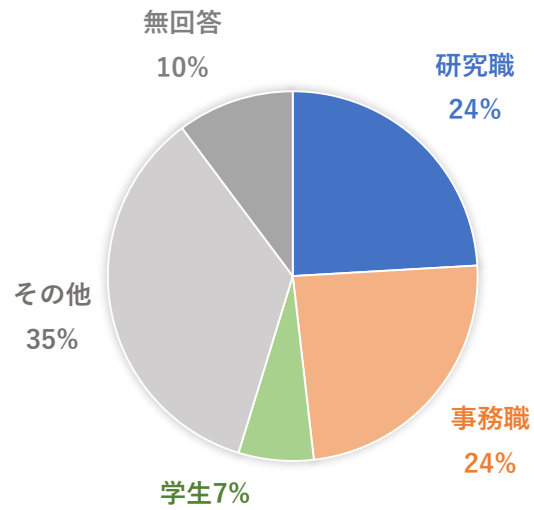
性別



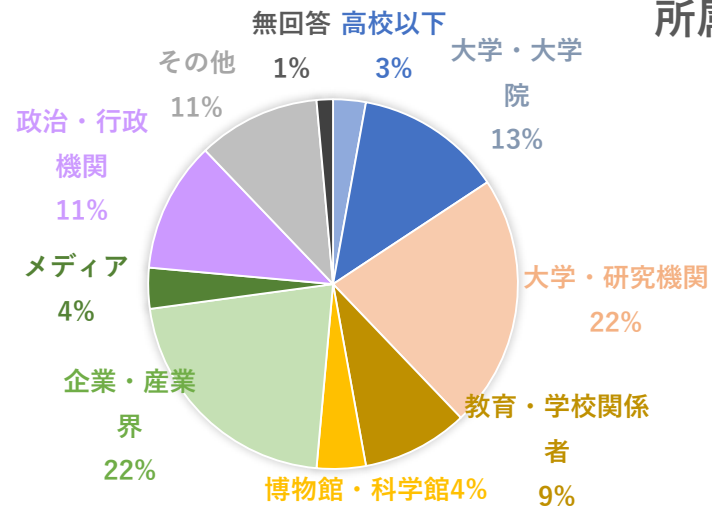
年齢



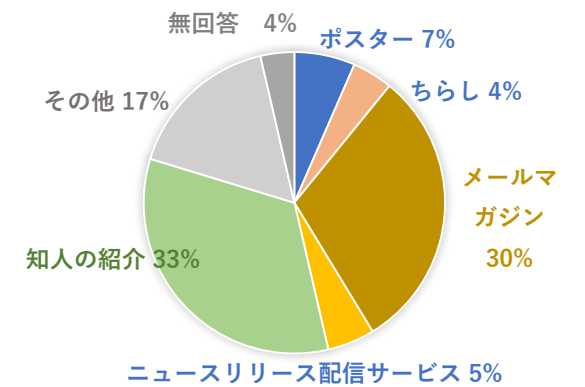
職種



所属

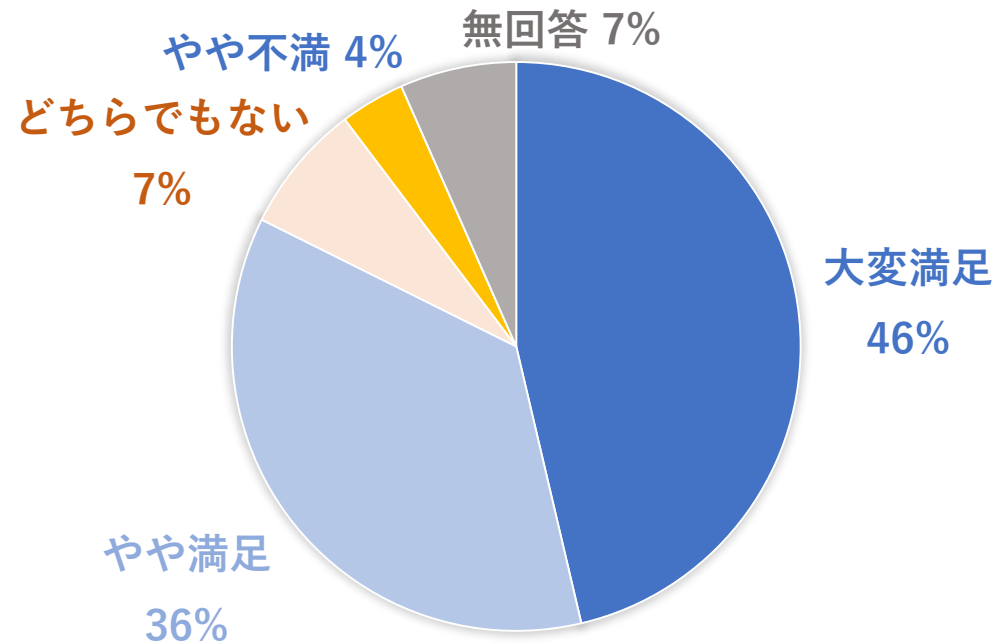


何を見て知ったか



基調講演

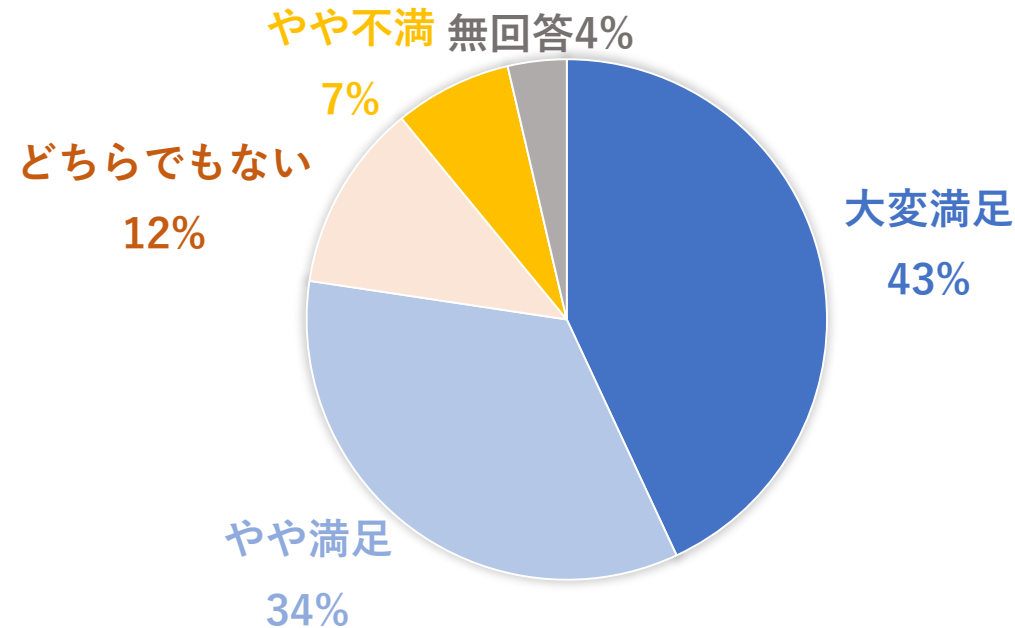
「科学コミュニケーション -科学と社会の対話-」について



近年の科学コミュニケーションの展開の経緯を整理して理解できた、社会や科学者がどのように作用しあっているかを考えることができた、などのコメントがありました。

パネルディスカッション第一部

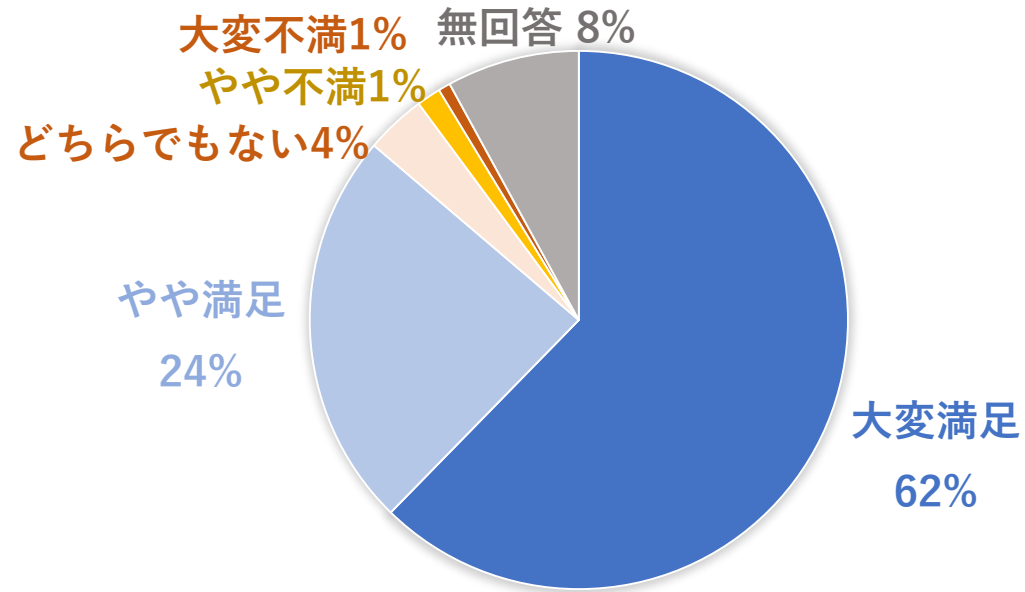
「伝えたいことは何ですか？ 伝わっていますか？
伝えると社会はどう変わりますか？」について



科学は客観的であるべきとされていたが主観的にとらえることも重要との指摘に新しい気づきを得た、自分が日ごろ技術についてどのような姿勢で向きあっているか、今後どのように向きあうべきかを見つめ直すことができた、などのコメントがありました。

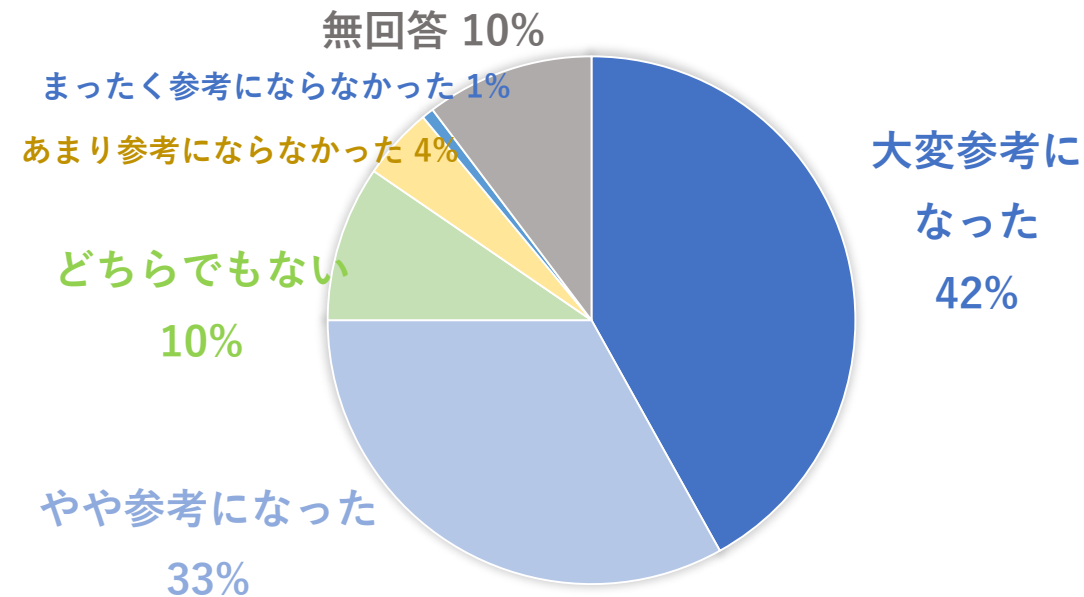
パネルディスカッション第二部

「知のループを社会に広げるために」について



情報化社会と人類学の視点の議論が融合して興味深かった、また、「共有」とは何か、これからのAIが発展した世界への危機感、コミュニケーションが言語に頼らない時代が来るかも？という話に刺激を受けた、などのコメントがありました。

「新しい科学者像」と「科学コミュニケーション像」は参考になりましたか？



ICT時代に合った科学者・科学とは何なのか、新しいコミュニケーション像が必要といったコメントがありました。また、この議論をどう活かせるか考えていきたい、などのコメントがありました。